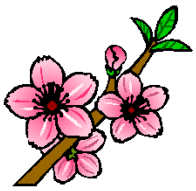
加　佐

学校だより３月号
令和４年３月１日
舞鶴市立加佐中学校
TEL 83-0004　FAX 83-3201
http://kasa.maizuru.ed.jp/



春暖の候　保護者・地域の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。日頃より本校教育にあたたかいご理解とご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

いよいよ令和３年度を締めくくる節目の月に入りました。1.2年生は今年度の総括テストに挑み、３年生は１週間後の公立高校中期選抜に備え一丸となり励んでいます。２週間後には義務教育９年間の大千秋楽、卒業式を迎えます。

私たちは　どう生きるか

緊急事態宣言に伴う我が国教育史上初の長期にわたる全国一斉臨時休業措置要請から、まる２年が経過しました。様々な制約や徹底した感染防止等、図らずも「常識」を見直し、「先々」を見通して備えることの大切さに脚光が当たりました。一連の困難な流れの中にありながらも、後々「臨時休業措置期間は、義務教育の社会的価値・学校での ICT 活用等が改めて見直される契機になった」とも捉えられました。「塞翁が馬」の例えはありますが、「**ピンチをチャンスに**」力を蓄え前へと進んでいます。

さて、GIGA スクール構想に伴い生徒に貸与された一人１台タブレットは、授業・家庭学習における支援にとどまらず、オンライン会議・自宅待機生徒への授業配信等、有効な活用場面が拡大しています。一方で、メディア依存や SNS による誹謗中傷・その他の犯罪等と切り離せない「諸刃の剣」、優れた利便性をもつ情報端末の負の側面の認識は、今や欠かせません。本来の効果的な使用方法を逸脱しない為には、「メリット」も「デメリット」も承知した上で、まずは正しい使用方法の十分な習得と、環境や適性に応じたルールを適用することです。ICT 機器に限らず、あらゆる便利な道具を適切に運用する上で「要」となるのは、行為の先を予測する力や当たり前の善悪の判断力であり、生活規律・道徳性・規範意識や人権感覚等、使用者が「**どのように生きるか**」に尽きます。学校ではそれらと併せて外部の専門機関と連携し、加害者にも被害者にもならないためのメディアリテラシーに係る指導を繰り返し行っています。

不易と流行

Post コロナに向けて、さじ加減に苦労しながら“当たり前”の精度を日々高めつつ、全世界が感染防止に係る試練を乗り越えようとしています。かつてない厳しい環境のもとで、加佐の子どもたちが今日まで力を合わせて、With コロナを健やかに正しく生きるための知恵と工夫を磨き・積み重ねてきた経験は、正に「生きる力」に直結する貴重な財産です。今後一層、目まぐるしく変化する社会をより良くたくましく生き、やがて次代に引き継ぐための大きな力となると信じています。

保護者・校区の皆様方におかれましては、くれぐれもお体を大切に、どうぞご自愛ください。

舞鶴市立加佐中学校　校長　福本　浩介　教職員一同

より良い学校教育で、より良い社会をつくる